

第6回 空港アクセス検討委員会概要

1 日 時：令和5年（2023年）3月20日（月）16:00～17:00

2 場 所：ホテル熊本テルサ たい樹

3 出席者

委員：加藤 一誠 慶應義塾大学商学部 教授
円山 琢也 熊本大学大学院先端科学研究部 教授
岩崎 司晃 九州産交バス(株) 代表取締役社長
中野 幹子 九州旅客鉄道(株) 執行役員 熊本支社長
新原 昇平 熊本国際空港(株) 代表取締役社長
川畑 健二 熊本経済同友会 まちづくり委員長
西村まりこ 熊本商工会議所 副会頭
島添 哲也 (一社)日本旅行業協会 熊本地区委員長
高橋 太朗 熊本県企画振興部長
亀崎 直隆 熊本県土木部長
井芹 和哉 熊本市都市建設局長
オブザーバー：犬塚 誠 国土交通省九州運輸局鉄道部長
府高 隆 熊本県観光戦略部政策審議監
熊本県：清田交通政策・統計局長
坂本交通政策課長、清塘空港アクセス整備推進室長

4 議事の概要

- 県から、ルート方針決定と今後のスケジュールについて説明後、委員から意見を聴取。（委員の発言は以下のとおり）
- 加藤委員長が「空港アクセス鉄道は、今後ますます増加が期待される航空旅客にとって非常に重要なものになる。熊本県全体で協力して取り組み、是非、早期実現を目指して頑張っていたきたい。」とまとめられました。

5 委員等の主な発言

新原委員（熊本国際空港(株) 代表取締役社長）

- ・ [阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルビル開業等について説明]

円山委員（熊本大学大学院先端科学研究部 教授）

- ・ 空港アクセス鉄道整備の必要性や、一般の道路と異なり、鉄道は運賃収入が発生するため、410億円という事業費がすべて県民負担とはならないことについて、県民に分かりやすく、正確に伝えていただきたい。
- ・ 豊肥本線の輸送力を強化するため、すぐに全線複線化することは難しいと思うが、行違いができる駅を増やす、新水前寺駅での市電への乗換をスムーズにする、他の交通モード、交通手段との繋がりを強化するといった取り組みを、開

業までの12年間で進めていただくことが重要だと考える。

- ・空港アクセス鉄道の整備効果を最大化させるために、高速道路等の道路政策も含めた総合的な交通政策を都市圏全体でしっかりと進めていただきたい。県庁、市役所職員の総合的な調整力が非常に重要だと思う。

岩崎委員（九州産交バス(株) 代表取締役社長）

- ・空港アクセス鉄道が開業するまでの間は、空港リムジンバスが空港へのアクセス手段としてメインになると思われるが、定時性に課題があるため、今後様々なソフト対策に取り組む必要があると感じている。
- ・熊本都市圏の渋滞対策は、我々交通事業者が一番必要性を感じているため、行政と連携して問題解決に尽力したい。

中野委員（九州旅客鉄道(株) 執行役員 熊本支社長）

- ・空港アクセス鉄道の実現に向けて、検討の進捗を進め、県との協議に引き続き取り組んで参りたい。

島添委員（(一社)日本旅行業協会 熊本地区委員長）

- ・アクセス鉄道の整備後になるが、観光列車の導入をお願いしたい。日本国内でも様々な場所に空港に乗り入れる鉄道があると思うが、観光列車は乗り入れていないと思う。誘客のコンテンツの1つとなることが期待される。
- ・先日、福岡空港の国際線を利用した際に、多くの到着便と時間が重なり、公共交通機関での移動が困難となった。熊本空港も今後、多くの国際線の定期便が就航されることになると思うが、同じような課題が発生することが考えられるため、解決していく必要がある。

川畑委員（熊本経済同友会 まちづくり委員長）

- ・アクセス鉄道を早期に実現し、経済効果が発揮できるように、県民にアクセス鉄道の必要性や効果を認識していただき、機運醸成を図ることが重要。
- ・鉄道整備の経済効果を最大化するために、空港のターミナルから空港駅までの距離、動線の工夫、航空機と鉄道の乗り継ぎを考慮したダイヤ・便数の設定、他の交通機関の結節点の強化等、利用者が心地よく使えるような工夫をしていただきたい。
- ・豊肥本線沿線や空港周辺は、半導体関連企業の進出により、今後大きく様変わりしていくことが予想される。これらの地域における都市開発、まちづくりについては、エリア全体のビジョンを描きながら進めていただきたい。

西村委員（熊本商工会議所副会頭）

- ・ 空港アクセスの検討について、ここまで進めることができたことは、様々な方の知恵の結晶ではないかと思う。
- ・ 空港が新しくなり、今後ますますランドマーク的になった場合に、駐車場が足りなくなることを危惧している。

犬塚オブザーバー（国土交通省九州運輸局鉄道部長）

- ・ 鉄道整備の実現に向けて、課題があると認識しているため、今後も前広に様々な情報をいただきながら、できる限り協力していきたい。

坂本交通政策課長

- ・ 豊肥本線の輸送力強化や周辺開発については、庁内及び熊本市やJR九州等と連携を取り、検討を進めて参りたい。

【総括】

加藤委員長（慶應義塾大学商学部 教授）

- ・ 事務局から説明されたとおり、昨年12月の県議会で肥後大津ルートで空港アクセス鉄道の事業化に向けて取組みを進めることを知事が決断された。
- ・ 空港アクセス鉄道は、今後ますます増加が期待される航空旅客、特にインバウンドにとって非常に重要なものになる。早期実現に向けて頑張っていたきたい。私としても応援させていただく。
- ・ 次回以降の検討委員会につきましては、空港アクセス鉄道を実現するために、今後改めて、県の方から、意見を求められた場合に協力するということよろしいか。

—（委員了承）—

（以上）